

岡谷 九条の会

2013.2.13

事務局 岡谷市長地片間町2-5-5
Tel. Fax 0266-28-9230

ニュース NO. 56

たいへんな一年が始まっています。あらたなバブル時代の再開で、ぼろ儲けする者とますます貧困に陥る者と格差社会はさらに深刻化し、社会の矛盾はさらに拡大してくるでしょう。そのうえ、原発の諸問題、TPP、領土問題、沖縄問題、集団的自衛権など、すべてにわたって厳しい状況がいっそう厳しさを増すことになるでしょう。特に憲法問題は、圧倒的な議会勢力が、いよいよ本格的に改憲に取り組み始めました。

私たちは、数のマジック選挙とか、国民性のせいとか愚痴ることはやめよう。「何よりも命が大切」という根本原則を踏まえて、再び態勢を立て直し、力を合わせて改憲の動きを阻止しよう。反原発の下からのもり上りが、すぐにでも稼働できる原発の再稼働を2基で止めていることに自信を持って、「憲法九条を守り世界に輝かせる」ために立ち上がりましょう

行事と活動の報告

11月24日(土) 表秀孝先生 講演会 諏訪湖ハイツ

「私たちは9条をどう生きたか、どう生きるか」の演題で、ご自分の経験をまじえながら、これからの世界をどう生きていったらいいのか、示唆にとお話であった。ただ聴衆は20人足らずで残念であった。

12月8日(土) ピースウォーク 諏訪市湖畔公園

寒い冬の朝でしたが、80人余の人々が「九条を守れ、憲法をいかせ」「原発即時廃止せよ」などの小旗やプラカードを掲げて元気よく行進しました。

今後の予定

2月23日(土)「皆で語ろう・憲法9条」

イルフカルチャーセンター 多目的ホール 14:00~16:30

改憲とか海外派兵とか、勇ましい掛け声が全国を駆け巡っています。戦勝国を思い描く勢力は、参議院選挙後一挙に改憲にもっていくつもりです。皆でこれに立ち向かって、戦争は絶対反対の声を上げましょう。基調講演、会場からの発言、歌声、岡谷九条の会のこれからの活動や運営についての提案や意見も含めて、大いに語り合い、交流しあって、これからの活動にむけて元気を出し合う会としましょう。(詳細は同封チラシ参照)

3月10日(日) 原発とめよう未来のために～

下諏訪文化センター パレード 13:00～ 講演会 14:00～ [500円]

原発事故からまる2年を迎える3月10日(日)、首都圏反原発連合を中心とするさまざまなグループが協力し、原発ゼロにおけた大行動「0310 原発ゼロ☆大行動」が行われます。長野県でも各地でさまざまな行動が計画されていますが、「脱原発すわ連絡会」ではパレードと講演会を予定しています。お仲間を誘ってぜひ参加してください。[詳細は同封チラシ参照]

3月11日(月) 反原発岡谷集会 ララオカヤ 一階 14:00～

—— 3・11 復幸と原発ゼロフェスティバル おかや ——

岡谷でも集会をして原発ゼロの市民の声をあげたいという要望があり、実行委員会を結成し市民にも呼びかけて集会を持つことになりました。本会もこれに協力したいと思います。内容は、呼びかけ、歌声、獅子舞、岡谷太鼓など。ふるってご参加ください。またこのため3/2(土)の反原発集会は中止とします。4/6(土)は行います。

4月29日(祝) 憲法9条を守る県民大集合

「澤地久枝さん」講演会 長野県民文化会館 14:00～

久しぶりの全県集会です。本会としては大型バス1台で参加したいと思います。ふるって参加してください。(詳細は次回ニュースNo.57)

◎ その後の予定 5月3日 諏訪地方憲法集会 諏訪市文化センター
6月23日(土) 岡谷九条の会 総会 イルファカルチャーセンター

◎ 多額の 篤志寄付 を本年も 笠原忠夫、伊藤政美 の両氏よりいただきました。ニュース発行など続けることができます。多謝多謝。

【憲法草案づくりに加わったベアテ・シロタ・ゴードンさんが、12月30日死去されました。追悼の言葉の代表として、朝日新聞から「天声人語」を転載させていただきました。】

天声人語

「日本の憲法は押しつけられた」「いや、そうではない」と戦後68年の今も論議は続く。その憲法の草案づくりに加わったベアテ・シロタ・ゴードンさんは、よくこう語った。「日本の

憲法はアメリカよりすばらしい」。そして憲法の精神が暮らしに生かされることを願ってきた▼憲法24条は男女の平等をうたう。草案の人権小委員会の一員として22歳でそれを書いた彼女の訃報が、米国から届いた。89歳。ただ書いただけでなく、戦後の日本を見つめ続けた人だった▼戦前に一家で日本へ来た。少女時代を東京で過ごし、二・二六事件にも遭遇する。開戦前に単身渡米して学び、戦争が終わると、両親を捜すために連合国軍総司令部の要員に応募して日本に戻った▼憲法施行の年に離日したが、その後も訪日を重ねた。各地での講演は100回をゆうに超す。かつて同僚の取材に、草案を書いたことを「ちようど私がそこにいただけ」と答えていた。さりげない言葉の向こうに、だれが書こうが平等は普遍的の原理だという信念が感じられたものだ▼社会にも会社にも女性の力が求められて久しいのに、この国での進出は今もおぼつかない。企業や官庁に幹部は少なく、首長も議員も一握り。ある調査では男女の平等度は135カ国中の101位とお寒い限りだ▼ベアテさんの最期の言葉は、日本国憲法の平和条項と女性の権利を守ってほしい旨の願いだっただけ。元気を欠きがちなりベラルーエの工場のように、それは聞こえてくる。